

「岸和田」という地名

井関 裕子

大阪府下には「岸和田」という地名が2か所あることをご存じですか。

1か所目は門真市内に「岸和田」という字が今でも残っています。後白河上皇が新日吉社領として寄進した荘園の一つに「岸和田^{あざ}庄」がありました。平安時代、すでに門真市の「岸和田」は地名として成立していたことがわかります。

もう1か所目は、我々が住む「岸和田」市です。こちらはどのように地名が成立したのか、少し考えたいと思います。

この「岸和田」市の由来はさまざまあります。その中でも最も有名なのは、南北朝時代、この地が「岸」と呼ばれていて、そこへ楠木一族の和田氏が住んだことから、「岸の和田」が転じて「岸和田」という地名になったという説です。この説は、1700年（元禄13年・江戸時代）に石橋直之が書いた『泉州志』に拠るものです。『泉州志』（図1）の「岸和田城」にこの地を「岸村」といい、楠木正成一族である和田高家が城郭を構えて住んだことから、「岸の和田」と称し、「岸和田」という地名がうまれたのだとしています。



図 1. 泉州志

ほかにも、現在の美木^{みきた}多を出自とする和田（みきた）氏が関係する説があります。南北朝時代の史料に「岸和田治氏」や「岸和田快智」など「岸和田」を名乗る人物が登場します。この史料が所収されているのが、「和田文書」です。「和田文書」は和泉国大鳥郡和田（みきた）郷（現在の堺市南区の美木多）の和田（みきた）氏が所有する史料です。この和田（みきた）氏の一族が「岸和田」に居を構えたことから、「岸和田」氏を名乗ったのではないかと

ということです。

ところが、武士の姓（名字）は、たいてい自分たちが治めていた土地の名前が付くといわれています。例えば、岸和田市内には八木郷に居を構えていた八木氏がいました。ですから、この地も、もともと「岸和田」という地名が付いていた、と考える方が当時の^{ならわし}習にあっていると考えられます。

地名がつけられた当時の史料ではないのですが、江戸時代後期に書かれた『かりそめのひとりごと』で「岸和田」の地名の成立が少し触れられています。『かりそめのひとりごと』は、熊取の庄屋であった中盛彬^{もりしげ}によって書かれた見聞録です。その中の「岸の和田と堺の館」で、江戸時代の儒学者であった荻生徂徠^{おぎゅうそらい}がいうには、「岸和田」とは「岸の湾（わんど）」が転訛^{てんか}したものだと記されています。荻生徂徠のいったことは、地名の成り立ちとしては、無くはない話だと思います。ところが、この記述の中で、荻生徂徠がいう「岸の湾（わんど）」からの転訛は、「おほひなるあやまりなめり」と記しています。つまり、荻生徂徠の説は、大いなる誤りだと中盛彬は考えたのです。そして、中盛彬も楠木正成一族の和田正武（和田高家の子息）が岸に住んだため、「きしのわだ」殿と言っていたのが、いつの間にか里名となったと書いています。

いずれにせよ、この「岸和田」が「岸」と呼ばれていたのか、はたまた「岸の湾（わんど）」のように別の呼び方があったのかは謎です。和田氏が活躍した南北朝時代の史料はもちろんのこと、さらに時代を遡って地名成立期の史料を読んで、この謎にせまっていきたいと思います。

（いせき ゆうこ：岸和田市立北中学校教諭）

高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）と芥川の魚類

花崎 勝司

私の勤務先のひとつ、高槻市立自然博物館（以下、当館）は大阪府北部に位置する高槻市に位置しています。JR 京都線の大阪駅と京都駅のちょうど真ん中付近です。当館は 2009 年から高槻市の指定管理者制度を受け、NPO 法人 芥川倶楽部と認定特定非営利活動法人 大阪自然史センターが共同設立した「あくあぴあ芥川共同活動体」が管理・運営しています。

常設展示として、1 階では関西の自然史系博物館の中では屈指の展示数であ

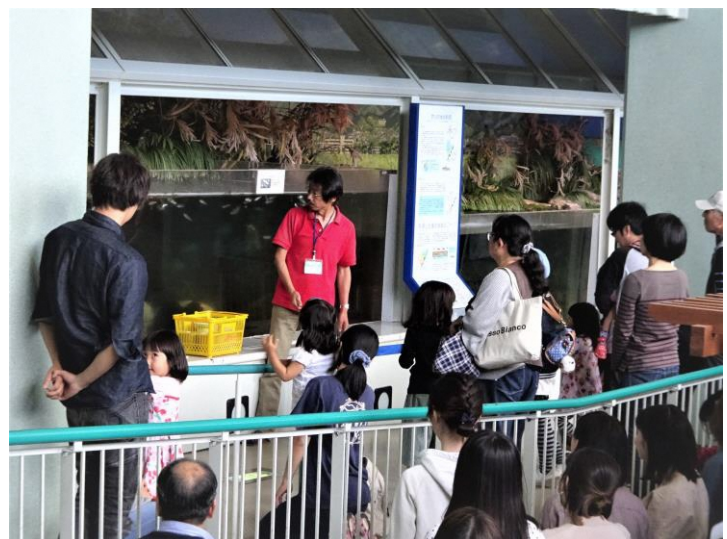


図 1. 高槻市立自然博物館（あくあぴあ芥川）



図 2. カマツカ（コイ科）



図 3. ムギツク（コイ科）

どのコイ科魚類やハゼ科のカワヨシノボリなど 約 20 種といったところです。この芥川で特徴的な魚をあげるとすればムギツク（図 3）がそれに相当します。大きさは約 10 cm，体に黒いすじをもつのが特徴です。

さて、岸和田市を含む泉州地域にも芥川のような小規模河川が多くありますが、芥川との大きな違いはその多くが海に流れ込むことです。すなわち海に生息するものの河口域にも出現するクロダイ、スズキ、マハゼ、およびクサフグなどは泉州の河口域では普通に見られますが芥川では見られません。ただ、コイ科魚類の多い淀川とつながっていることで、ムギツクやカマツカなど泉州地域にはいない、もしくは少ない魚類が豊富にいます。

高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）について

所在地：高槻市南平台 5 丁目 59 番 1 号

開館時間：午前 10 時～午後 5 時

休館日：月曜日(祝休日のときは翌平日)と 年末年始(12 月 28 日～1 月 4 日)

入場料：無料（特別展を除く）

ホームページ：http://www.city.takatsuki.osaka.jp/rekishi_kanko/kanko/aquapia.html

る鳥類や哺乳類の剥製、昆虫類の標本などを展示しており、2 階には容量 10 トンのジオラマ水槽をはじめ、大小様々な約 30 本の水槽で、魚類やエビ・カニ類などを生体展示しています。（図 1）。

当館の前には、高槻市を北から南に縦走し、淀川に流れ込む淀川水系の一支川である流路延長約 25 km の芥川が流れています。芥川での魚類調査は 50 年以上前から行われており、それらの報告書や 2009 年以降の当館による現地調査、および標本調査の結果、小規模河川ながら実に 50 種以上が記録されていることが分かりました。ただし、50 年以上記録が途絶えているナマズの仲間のアカザや、国外から持ち込まれたオオクチバスなど国外外来魚約 10 種も含んだ種数です。

コンスタントに採集される魚類としてはオイカワ、カワムツ、モツゴ、ムギツク、そしてカマツカ（図 2）な

Information

●自然資料館の展示

「第 24 回ネイチャーフォト写真展」

写真サークル「クローズアップ岸和田」の会員による、身近な動植物の写真展です。ふだんは気がつかないような自然の姿を発見できるかもしれません。

会 期：2020 年 9 月 13 日（日）～10 月 3 日（土）

時 間：午前 10 時～午後 5 時
（入場は午後 4 時まで）

休館日：9 月 21 日を除く毎週月曜日、9 月 19 日、20 日、23 日、9 月 30 日

場 所：きしわだ自然資料館 1 階ホール
（堺町）

入場料：無料（常設展は高校生以上 200 円）

●岸和田城の展示

企画展「訴訟・歎願に残る村の記憶展」

岸和田市が所蔵する歴史資料のうち、訴訟書や嘆願書に焦点をあて、江戸時代ごろの岸和田の様相や暮らしぶりを紹介します。

会 期：2020 年 5 月 23 日（土）～10 月 11 日（日）

時 間：午前 10 時～午後 5 時
（入場は午後 4 時まで）

休場日：8 月 10 日、9 月 21 日を除く毎週月曜日

場 所：岸和田城天守閣 2 階展示室(岸城町)
入場料：高校生以上 300 円・中学生以下無料

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072
岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページ URL
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>

（Google などの検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です）

※お願い [fromM]は、学校教職員に 1 部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。